

吹奏太郎



Yashitsutsuji



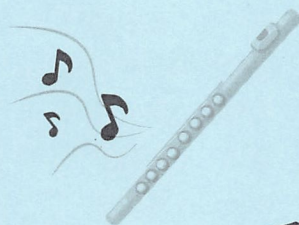
Hachimangu
Sakasasugi



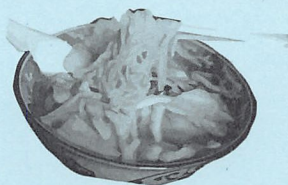
Nasushiobara



那須塩原市
ブランドキャラクター
みるひ



Toteyaki



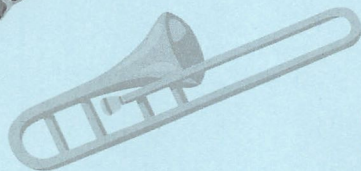
Suupuri
Yakisoba



Shiobara
Onsen



Aokike Bettei



目 次

★巻頭言	1
栃木県吹奏楽連盟副理事長 鈴木 史隆	
★1 第67回栃木県吹奏楽コンクールに参加しての感想	1
中学校の部B部門	日光市立日光中学校 星野 百音
中学校の部B部門	宇都宮市立古里中学校 鹿内 柑那
中学校の部A部門	宇都宮市立清原中学校 丸山陽菜子
高校生の部B部門	佐野日本大学高等学校・中等教育学校 白澤 葵
高校生の部B部門	栃木県立大田原高等学校 折原佑紀子
高校生の部A部門	栃木県立佐野東高等学校 小林 千紘
職場・一般の部	小山市交響吹奏楽団 田口 博幸
職場・一般の部	ゼーレンフォルクスオルケスタ 鈴木 志乃
★2 第38回栃木県マーチングコンテストに参加しての感想	7
B部門	青藍泰斗高等学校 川崎 龍
★3 第31回東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想	8
小学生の部	高根沢町立西小学校 平石 涼音
★編集後記	8
栃木県吹奏楽連盟副理事長・広報部長 今泉 剛	

栃木県吹奏楽連盟副理事長 鈴木 史隆

令和7年度も半年が終わり、前半の大きな大会も無事に終了することができました。特に7・8月に行われた吹奏楽コンクールとマーチングコンテストでは、部員数の減少や練習時間の削減など様々な困難を乗り越えて、各団体とも素晴らしい演奏を披露していただいたことに深く感謝しております。また運営面に関しても多くの実行委員、補助員の高校生の皆さんのご協力をいただきました。強い団結力や協力を惜しまない姿勢は、手塚豊理事長の時代から今日まで脈々と受け継がれている栃木県吹奏楽連盟の大切な宝だと思います。これからも大切に守っていききたいと思います。



今年度後半は、12月にアンサンブルコンテスト、2月に吹奏楽講習会とスプリングフェスティバルが予定されています。より多くのグループがアンサンブルコンテストに参加して合奏の基本を学んで欲しいと思います。また吹奏楽講習会の講師は元柏市立柏高等学校吹奏楽部顧問だった石田修一先生をはじめ一流の先生方がご指導に当たられる予定です。短時間ではありますが、最新の指導法を学び普段の自分の指導を振り返ることができるよい機会です。奮って参加していただきたいと思います。

さて、10月18日・19日に宇都宮市文化会館で行われた全日本吹奏楽コンクールは大変お世話になりました。一昨年、大学・職場一般の部、昨年と今年、中学生A部門と高等学校A部門と3年連続の全国大会が、皆様のご協力のおかげで無事に終了できましたことは、全国に栃木県の団結力の素晴らしさを知っていただけたよい機会になったと思います。

出場された各団体の演奏は、曲の隅々まで十分にアナリーゼがなされた上で、それぞれの団体の主張や個性が存分に発揮された素晴らしい演奏だったことは言うに及びませんが、ステージに上る姿勢、ステージセッティングの早さや美しさ、演奏開始を待つ姿勢や表情などを見るだけで素晴らしい演奏を予感させられるものでした。そして演奏終了後の満足感あふれる表情や立ち姿、さらに後片づけの早さなどのすべてが、ステージに上がるとはどういうことか、お客様に自分たちの演奏を聞いてもらうとはどういうことか、指揮者と演奏者が完璧に理解した状態でのパフォーマンスだったと思います。このようなことが緊張する本番のステージでできるのは、普段の学校や家庭生活の中でしっかりと身につけてきた生活の基本が土台となっているからだと思います。

ある調査によると、運動部を含めたすべての部活動の中で一番部員数が多いのは吹奏楽部だそうです。また、吹奏楽部で得られる様々な学びや努力は、これからの日本社会にとって大切な基盤となり得るという論評もあります。指導にあたられる方々にとっては、喜びよりも苦労の方が多い毎日かと思いますが、たった一言の褒め言葉が生徒の人生にとって大きなエネルギーになることもあります。音楽を人生の糧として大切にしていけるような人づくりを目指してこれからも頑張っていきたいと思います。

1 第 67 回栃木県吹奏楽コンクールに参加しての感想

令和7年7月29日(火) 中学生の部B部門 1組

会場：宇都宮市文化会館

7月30日(水) 中学生の部B部門 2組

7月31日(木) 高校生の部B部門

8月 8日(金) 中学生の部B部門代表選考会，高校生の部A部門

8月 9日(土) 小学生の部，高校生の部C部門・D部門，大学の部，職場・一般の部

8月10日(日) 中学生の部A部門

「統合後、初となる「金賞」へ！」

日光市立日光中学校 教諭 星野 百音

日光中学校は、統合により、今年度新設された学校です。旧日光東中を4年間指導し、5年目となる今年は、『絶対に金賞をとりたい!』という思いで、必死で練習に取り組んできました。これまで私自身がお世話になってきた沢山の先生方から吸収した事を全て注ぎ、日光中らしい演奏づくりに励みました。今年度、私たちが演奏した“ドゥジエム セリエ アルモニク「調和級数」”は、私が候補曲としていくつかあげた中でも1番グレードの高い曲でしたが、曲決めの際、生徒たちが万丈一致で『やりたい!』と言って選んだ曲でした。ペルトーンや、主旋律との音量バランス等、課題は沢山ありましたが、一つ一つ、克服していくにつれて、生徒たちも自信を持って演奏できるようになっていたと思います。吹奏楽だけに限らず、部活動指導で何より大切なのは、生徒の自己有用感を育てる事だと思います。一人一人が自分の音に自信をもち、主体的に合奏に取り組む姿を想像し、ほめて伸ばす指導を実践してきました。自己有用感を高めることが、技術の向上にもつながっていると、5年間の指導を通して気づく事ができました。日光中の生徒はみんな、『吹奏楽が大好き!』『音楽が大好き!』という思いがとても強いと感じます。『練習がやりたい!』という生徒たちの熱意にはこちらが圧倒される程です。



そして迎えたコンクール当日は、緊張感はありませんでしたが、生徒みんなが笑顔で楽しく演奏をする事ができ、吹奏楽の素晴らしさを改めて実感するステージとなりました。吹奏楽指導に携わって以来、初めての『ゴールド金賞!』と言われた時の感動は、これからの教師人生の中でも、きっと忘れられない経験だと思います。

生徒たちと共に、このような経験が出来る事は本当に幸せな事であり、吹奏楽指導者の醍醐味であると感じます。これまで携わって下さった全ての方への感謝を忘れず、今後もさらに精進していきたいです。

「コンクールに参加して」

宇都宮市立古里中学校 部長 3年 鹿内 柑那

私達はこの夏、栃木県吹奏楽コンクールで金賞を受賞し、代表選考会進出への切符を手に入れることができました。

去年、先輩方が引退されたと同時に、部長・副部長が新しくなりました。その時期はアンサンブルコンテストを控えていて、木管・金管・打楽器それぞれのチームが目標に向かって精一杯、練習をしていました。私がいたチームでは、「金賞を取る」という目標を掲げていました。しかし、結果は届かず。そんな中、打楽器のチームは、地区大会、県大会を突破し、東関東大会進出という成果を残しています。今まで、一緒に曲を作り上げてきた仲間だったからこそ、嬉しい気持ちや応援したい気持ちがあった反面、それ以上に私が負けず嫌いの

だったこともあるのか、とても悔しい気持ちもありました。きっかけはここからでした。「このままでは最後のコンクールでまた悔しい思いをしてしまう」そう思い始めるようになったのです。そこから思い切って、2人の副部長に「私はどうしても夏のコンクールで金賞が取りたい。」そう打ち明けました。2人は納得し、私を支えると言ってくれました。その後、3人で顧問の先生と部員全員にはっきりと、「金賞を取りたい」と意思表示しました。そうして、その言葉が部の目標となりました。

楽譜をもらったときには、今までの曲と比べると、曲の難易度が上がっていて、正直、不安でいっぱいでした。それでも部員たちと一緒にめげずに努力してきました。顧問の先生が変わり、

一年生が入部し、新体制となった4月から6月までの忙しい中でも、決まった時間の中で集中して練習してきました。この時期は、曲のリズムや音を正確に演奏することや曲を通せるようになることを重点に置き、練習を積み重ねてきました。7月からは、本番に向けての仕上げを中心的に取り組みました。顧問の先生を中心に、音程や表現を全員で揃えていきました。練習とはすごいもので、やればやるだけ上達するというのを改めて感じる事ができました。

そして当日、これまでの練習と仲間を信じて演奏し、見事12年ぶりに金賞を受賞、28年ぶりに代表選考会へ進出することができました。選考会では惜しくも東関東大会進出を逃してしまいましたが、今年の目標を達成することができました。それでも、やはり悔しさは残ります。この悔しさが、来年への踏切板になることを期待しています。

最後に、このような結果を残すことができたのはいつでも支えてくれた、顧問の先生や保護者の皆様のおかげです。

“ちょっとずつ練習を積み上げていけばいつか必ず結果につながる。” “だから頑張ろう。”

私にとってそんな顧問の先生の言葉が、コンクールが終わった今でも心に残っています。私達を見守ってくださった皆様、本当にありがとうございました。

この夏の経験を通して私は、目標に向かって進んでいくことや、仲間がいてくれることの大切さを学びました。古里中学校吹奏楽部はこれからも、互いに切磋琢磨しあい、一丸となって音楽に取り組んでいきたいと思っています。



「吹奏楽コンクールを終えて」

宇都宮市立清原中学校 部長
丸山 陽菜子

今年のコンクールでは、良い結果を残すことができず悔しい気持ちでいっぱいです。しかし、練習の中で自分たちが少しずつ成長することを実感できた場面も多く、「自分の技術面でもこうするとよりよい曲になる」、「もっと自分の音をきれいにしたい」などと、演奏について深く考えるようになり、努力の成果を感じ



れる瞬間もありました。本番も今まで緊張していた舞台上でもむしろ、この素敵な音楽を色んな人に聞いてほしいとわくわくし、この経験は私の素晴らしい「青春」だったと思います。結果を問わず、みんなで最高の演奏をできたこと、最高に楽しかったことは変わりないです。私は、来年は清原中学校にいませんが、後輩たちには、後悔のないように、何が大切なのかよく考え、次の大会では今回の悔しさを力に変えてより演奏「清中サウンド」をホール中に響かせて行ってほしいです。

最後に、部員のみんな、楽しい最高の部活をありがとう!!そして支えて応援してくださった先生方、保護者の方々、本当にありがとうございました!!

「私達が歴史を創った!!」

佐野日本大学高等学校・中等教育学校 部長 白澤 葵

私たちは、「私たちが歴史を創る 最高のステージで最高の演奏を築け」を信念に活動してきました。

これは各種イベント、演奏会の目標でもあります。最終目標は東関東大会にて最高の演奏をするという思いで作られました。

昨年度の夏、掲げていた目標「東関東大会出場」が苦しくも崩れ、銀賞という結果で終了し、私は皆と共に悔し涙を流しました。きっと今までの人生であれほど悔しいと思ったことはなかったでしょう。



ですが、その悔しさを引きずる訳にもいきません。次のコンクールも同じ結末で終わりにしたくないと私は決意し、皆で考え工夫を凝らした練習を行いました。

基礎を重点的にを行い、ユニゾンでは他パートと音を重ね意見を言い合います。地道ですが、ピッタリ合うととても嬉しく、やっていて良かったと思うことが多いです。

合奏でもお互いに意見を言い合い、曲をより良いものにしようとしました。自分の持っている考えと意見が食い違う事もありましたが、他の考えも聞いて曲の世界が広がっていくのが楽しかったです。

また、初めての試みとして合宿も行いました。一日中楽器を吹くのは大変でしたが、楽しかったです。

そして迎えた本番当日。照明に照らされ、キラキラと輝く楽器を持ち、曲が終わるまで今までの練習の成果を出しました。あの7分間はとても長いようであつという間に感じました。結果発表には、お守りを手に取り、隣の部員と手を握ってその時を待ちます。演奏の時とは違い、この時間はとても長く感じ、緊張で鼓動が早くなっていました。

そしてその結果は金賞、栃木県代表。呼ばれた時点で潤んでいた目はもう崩壊し、私は皆と共に嬉し涙を流しました。

あの瞬間は人生の中でも忘れられない思い出です。

最後に、忘れてはならないのが私たち部員の努力だけで得たものではないということです。

私は当たり前のようにあると思っていても、周りの支えというのは本来当たり前ではないと思っています。影から支えてくださった保護者の方、応援してくれた友人や先生方、先輩方。皆さんの支えがあったからこそその結果だと思っています。

心から感謝しています。本当にありがとうございました。

「コンクールに参加して」

栃木県立大田原高等学校 顧問 折原 佑紀子

「僕たちはもう、注射も泣かないような年齢です。そんな自分たちが悔しくて涙が止まらないほどコンクールに打ち込めたことは、すごく素晴らしいことだと思います。だから今年も、東関東を目指したいです。」今年の4月、副部長のK君の言葉で今年のコンクールは動き出しました。昨年度は3年連続のダメ金。東関東を目指していた大高生たちは、会場で泣き崩れ、バスの中も、学校で楽器を片付けている間も、帰りのミーティングも、ずっと泣いていました。男子生徒がほぼ全員泣いている姿を見て、私はかける言葉がなく、一緒に涙を流すことしかできませんでした（本校は男子校）。心が折れて部活を辞めてしまうのではないか、音楽を嫌いになってしまふのではないか、いろんな思いがよぎりました。ですが、生徒は強いもので、泣き疲れた部員が1人、また1人と音楽室から外の通路に出て、星空の下で通路に寝そべったり、その空間で楽器を吹きだしたりと、気づいたらその場にいた部員みんなで星を眺めて笑い合い、自分たちなりに悔しさを乗り越えている姿がありました。

そんな去年を経て、今年度は念願の東関東出場を果たすことができました。もちろん簡単ではありませんでした。去年よりも練習量を増やし、難易度の高い曲に挑戦し、努力を重ねました。辛かったと思いますが、悔しさが彼らの強さにつながっていたのだと思います。大高吹部は部員の7割が高校から始めた初心者なので、経験者が多い学校と比べると、それを埋めるだけの時間や工夫が必要になります。大変だったと思いますが、いつも音楽に真剣に向き合い、仲間と協力し合い、尊重し合う姿が見られました。今年の表彰式では去年とは違い、涙を流しながらも全員が笑顔で喜びを分かち合っていました。その姿を、みんな忘れることはないと思います。

高文連音楽祭をはじめとした、県の高校の演奏会では他校にはない男子校ならではの愉快な姿をご覧いただいています。一味違ったストイックな一面もあるのだということを紹介させていただきました。コンクール出場に当たり、運営の皆様や応援してくださったすべての皆様がこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。



「誠心・伝心・挑戦心」

栃木県立佐野東高等学校 部長 小林 千紘

私たちの代にとって、吹奏楽コンクール A部門への出場は初めての挑戦でした。3年生にとっては最後のコンクールであり、これまでの活動の集大成として、部員全員で力を合わせて練習に励んできました。

新しい舞台に挑む不安もありましたが、それ以上に「私たちの音楽を客席に届けたい」という強い思いがあり、毎日の練習に真剣に取り組んできました。うまくいかないことも多くありましたが、仲間と励まし合い、支え合いながら乗り越えてきた時間は、かけがえのない経験となりました。共に過ごした日々が絆を深め、音楽への思いをさらに強くしてくれたように感じます。

本番では、課題曲の演奏で緊張から音の出だしがうまくいかず、焦りもありました。しかし自由曲では、これまでの練習の成果をすべて出し切ることができ、演奏を重ねるごとに音がひとつになっていく感覚がありました。演奏を終えた瞬間、胸の奥からこみ上げるものがあり、「音楽って本当に楽しい」と心から感じました。舞台の上で全力を尽くした達成感に、思わず涙があふれそうになりました。

結果は銅賞で、正直とても悔しかったです。ステージを降りたあと、みんなで泣きながら「悔しいね」と言い合った時間も、今では大切な思い出です。あの瞬間に流した涙は、私たちが本気で音楽と向き合ってきた証だと思います。結果だけでなく、仲間と過ごした練習の日々や、悩みながらも前に進んだ経験のすべてが、私にとってかけがえのない財産です。

振り返ると、日々の苦労や喜びが自分を大きく成長させてくれました。そして、あのステージで演奏できた経験があったからこそ、これからの新しい挑戦につながっていくのだと感じています。この仲間と最後のコンクールを迎えられたことを、心から誇りに思います。



「第 67 回吹奏楽コンクールに参加して」

小山市交響吹奏楽団 団長 田口 博幸

梅雨の季節を迎えると「もうすぐコンクールだなあ」と思いながらその準備や練習モードの切替えに入っていきます。今年も活動の一環として吹奏楽コンクールに参加させていただきました。

当団は昭和55年の第22回大会から参加させていただいており、今年は第67回という歴史を感じつつ43回目の参加となりました。

これまで様々な賞（成績）をいただきましたが、今回は「銀賞」という結果で終え、悔しさや残念な思いを味わいました。しかし、独特な雰囲気と緊張感、ここでしか得られない充実感や満足感。それがコンクールの魅力だと思います。学生の頃には「目指せ・金賞!」と日々努力をしたものですが、社会人になってからも学生の頃の情熱や2曲にかける思いを少しでも味わえるのは素晴らしい体験だと思っています。もちろんコンクールでしか得ることが出来ない収穫もあります。審査員の先生方から鋭いアドバイスをいただけること。他団体、他部門の熱のこもった演奏を聴かせていただけること。このことは今の自分たちにたくさんの気づきを与えてくれます。毎年講評用紙に書かれる講評の数々は今後の活動継続に向けて大変重要なものになっています。

このようにコンクールならではの楽しみも味わっておりますが、普段は仕事の合間を使つての趣味、余暇の利用として吹奏楽を楽しんでいます。ありがたいことに地元では多くの演奏の機会をいただいております。「お客さまに楽しんでいただく」ために少しでも良い演奏を披露したいと思っています。演奏の質の向上を常に心掛け、一定のレベルを維持する必要があると思います。コンクールは課題曲と自由曲の2曲に集中して向き合うことになるので、たくさんの曲を演奏するときに曲中の大切なポイントをつい素通りしていることやピッチのズレやテンポのブレの癖や原因などに気付かせれることが多く、参加に取組むことでスキルアップの機会として普段の演奏活動のプラスになっています。

コンクールに結果はつきものですが、結果に一喜一憂せず、驕る必要も自信を無くす必要もありません。学生の皆さんにはコンクールを通して上達した技術を更に磨けるよ



う、高校、大学そして社会人になっても是非一般バンドなどで更に音楽を楽しんで欲しいと思います。

私たちが環境が整えられる限り、是非コンクールに参加したいと思います。

最後に主催される栃木県吹奏楽連盟の方々、大会運営に携わる関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

「令和7年度第67回栃木県吹奏楽コンクールに参加して」

ゼーレンフォルクスオルケスタ 団長 鈴木 志乃

私が初めて吹奏楽コンクールに出たときの自由曲は「ビザンチンのモザイク画」(チェザリーニ)でした。もらった楽譜はグロッケン。3連符がタイで繋がっているメロディーに苦戦し、毎日のように3年生の先輩が練習に付き合ってくれました。次の年の課題曲は「交響的譚詩～吹奏楽のための」(露木正登)。初めての変拍子でした。「うつのみや」「いけぶくろ」ブツブツ唱えてたくさんたくさん練習しました。そして思い出深い「シンデレラ」(プロコフィエフ)。ロマンチックでドラマチックで最初から最後



まで大好きな曲でした。東関東大会は水戸でした。ファゴットだった私は、当日とても緊張して、朝の練習ではいつものように息が吸えず、落ち着くのにかかったものでした。

曲には思い出がついてくるとしています。その曲と過ごしたときの楽しかったこと、つらかったこと、先輩の顔、同級生との思い出、コンクール当日の天気、何年経っても当時のいろいろなことが蘇ってきます。特に、吹奏楽コンクール出場にあたり、課題曲や自由曲で長い時間を共にした曲は、尚更 そのときの感情も。

今年ご縁があった自由曲は「陽が昇るとき」(高昌帥)でした。フルートのソロ、美しい木管アンサンブル、ティンパニとピアノの掛け合い、IV楽章のバスドラム、陽が昇った瞬間のCdur、見どころ満載、高昌帥の響きに心がわくわくした曲でした。ソロに手が震えたことも、ひな壇の金管奏者がぎゅうぎゅうで座ったことも、きっと忘れないでしょう。

これからもゼーレンフォルクスオルケスタのみんなと吹奏楽コンクールの舞台に立てたら光栄です。今年もコンクールシーズンを支えてくださった全ての皆様にお礼申し上げます。

2 第38回栃木県マーチングコンテストに参加しての感想

令和7年8月28日(木) 中学生の部 A部門・中学生の部 B部門・高校生以上の部 B部門

会場：栃木県立県南体育館

「6人の絆でつかんだ金賞」

青藍泰斗高等学校 部長 川崎 龍

この度は、栃木県マーチングコンテストに出演させていただき、誠にありがとうございました。今回は2年ぶりの出場で、本番前はとても緊張しました。それでも、これまでの練習を信じて、全員で精一杯演奏・演技をすることができました。

私たちは6名という少人数で出場をしました。1人ひとりの責任が大きい分、全員で力を合わせることの大切さを改めて感じました。息を合わせることや、音や動きをそろえることに苦戦する場面もありましたが、レッスンの先生方のご指導を受けながら少しずつ成長することができました。

練習では、少人数だからこそ生まれる一体感を大切に、限られた人数でも迫力のある演奏を目指して工夫を重ねてきました。本番では、これまで培ってきたチームワークを信じ、6人全員で心をひとつにしてステージに立つことができました。

結果発表で「金賞」と聞いたときは、驚きと喜びで胸がいっぱいになりました。これまでの努力が実を結び、東関東大会に挑戦できる

ことをとても嬉しく思いました。多くの方々の支えがあってこそこの舞台に立てたことを忘れず、応援してくださる皆さまへの感謝の気持ちを胸に、これからも一歩ずつ成長していきたいです。



3 第31回東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想

令和7年9月 6日(土)・ 7日(日) 高校生の部A部門・中学生の部A部門

会場：カルッツ川崎

9月13日(土)・14日(日) 高校生の部B部門・小学生の部

会場：宇都宮市文化会館

9月20日(土)・21日(日) 中学生の部B部門・職場一般の部・大学の部

会場：水戸市民会館

「第31回東関東吹奏楽コンクールに出場して」

高根沢町立西小学校 金管バンド部ウエストファンファーレ 部長 平石 涼音

私たちは、9月に宇都宮市文化会館で行われた東関東吹奏楽コンクールに出場しました。久しぶりの東関東大会だったので、とてもさんちょうしましたが、この日のためにたくさん練習をしてきたので、自分たちを信じて最後まで吹きました。

いつもご指導して下さる村上先生は、“常に音楽を楽しむことが大切だ”と教えて下さいます。本番中も、さんちょうの中でもできるだけ音を楽しみながら演奏することを心がけました。

みんなで奏でた音が1つになったしゅんかんは、これからもずっと忘れません。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

編集後記

栃木県吹奏楽連盟副理事長・広報部長 今泉 剛

春の総会から10月の全日本吹奏楽コンクール（中A／高A）まで、前半の行事が無事終了することができました。各種行事・大会では、演奏をとおして、子どもから大人まで多くの方が音楽文化の振興・吹奏楽の普及に活躍されました。年度後半は、学校関係では新体制での活動、一般団体においては年末年始・春へ向けての活動となるかと思いますが、年度後半のご活躍に期待します。

《お願い》 原稿の執筆依頼が届きましたら、お忙しいとは思いますが是非書きいただき、期限内にお送りくださいますようお願いいたします。

